

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 益田市立豊川小学校

1 応募部門

- () 読書活動部門
- (○) 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

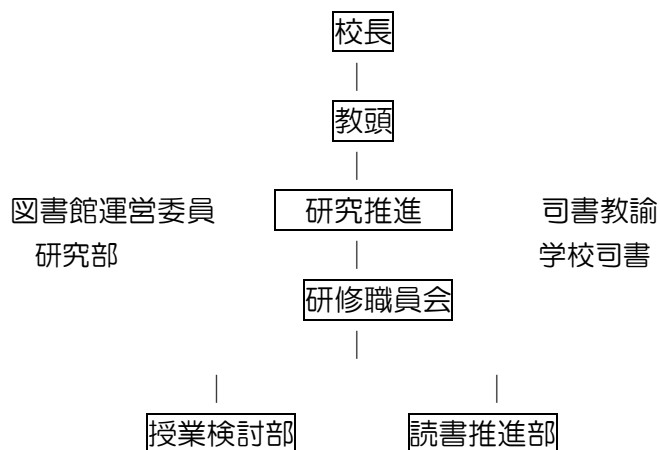
学校図書館に求められる様々な役割の中から、特に学習センターとしての役割に視点を当て、児童の情報活用能力育成のために学校図書館及び図書資料を学習の中でどう活用するのか考察する。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

(1) 基本仮説

- 単元構成を工夫し、学習の見通しを持たせた実践をすれば、児童は、課題意識を持って学習に取り組み、主体的に課題解決しようとする力が育つであろう。
- 担任、司書教諭、学校司書のそれぞれの役割を活かしてT T授業を展開し、児童一人一人に配慮した支援をすれば、自信をもって取り組む児童が育つであろう。
- 系統的なスキル指導を行い、活用の実践を積み重ねていけば、児童の学習への意欲や課題解決の力が向上するであろう。

(2) 実践組織



(3) 実践計画

- ①学校図書館を活用した授業を実践する
 - 国語科の説明文教材に視点を当てる
 - 学年団で重点単元を設定する
 - 担任、司書教諭、学校司書によるT T授業を行う
- ②全体計画、年間計画の作成をする
- ③意識調査、実態調査をし、その考察をする

4 実践の成果

図書館アンケートを昨年度、今年度と行った結果から、児童は「学校図書館が好き」という思いを感じ始めていることがわかる。「本がたくさんある」「本がきちんとならんでいる」「調べたいときに調べられる」など、学校図書館に対していろいろな思いを持っていた。学校図書館への関心は高まってきていることが分かる。

具体的に、学校図書館を活用した学習活動の成果としては、まず、児童が意欲を持って学習に取り組むようになったことが挙げられる。アンケート結果からも、80%以上の児童が、図書館の図鑑や百科事典を使っての学習が好きだと回答している。理由としては、「本が好き」「いろいろなことがわかる」「自分で調べることが楽しい」「大人になっても役立ちそう」などがあつた。

また、「図書館に行くと、分からないことが調べられる」「担任の先生、司書教諭の先生、学校司書の先生といっしょに学習するとよくわかる」と感じている児童が98%、99%にもなり、児童自身が学習活動に満足していることがわかる。

これらのことから、図書館を活用した学習活動に対し、児童が意欲を持ち始めていること、また、その有用性を感じ始めていることが分かる。実際に、学年が上がるにつれ、何か分からないことがあつたとき、図書館へやってくる児童の数は、増えている。また、低学年の中には、学期末の思い出作文に「図鑑でいろいろなことが調べられてよかったです。」ということを書き、全校児童の前で発表した児童もいた。

さらに、職員のアンケートからも「進んで調べようとする姿が多く見られるようになった」「国語科をはじめとして、課題解決型の授業を展開していく上で、学校図書館を活用することは、とても有効だと思う」という意見が聞かれ、さらに魅力ある図書館づくり、学習活動の展開を工夫していきたいと思うところである。